

いいたて希望の里学園／までのりのこども園
内堀雅雄福島県知事がこども園と学園を訪問

2月12日、内堀雅雄福島県知事が、までのりのこども園といいたて希望の里学園を訪問しました。

こども園では、園庭で遊んでいた園児が内堀知事を歓迎し、笑顔で交流しました。学園では内堀知事が、高橋教育長の説明を受けながら、外国語指導助手・リアン先生も一緒に進める英語の授業や、電子黒板・デジタル教科書・タブレットなどを活用しながら行う授業を視察しました。

また、学園の「いいたて学」について説明を受けた内堀知事は、「自然環境や歴史、伝統、暮らしについて9年間継続して学ぶことは、ふるさとへの愛情を育む素晴らしい取り組み」と評価し、「飯館村に生まれたことを誇りに思い、その学びを広く発信していくこの取り組みを、県としても応援していきたい」と話していました。



「知事さ〜ん」と声をかけた園児に、内堀知事が駆け寄りハイタッチ。子ども達と交流しました。



授業の見学に教室を訪れた内堀知事に挨拶をする児童。内堀知事は手を振り、笑顔で応えていました。



いいたて希望の里学園
9年生に感謝を伝える『春雪会』

2月20日、卒業を間近に控えた9年生に感謝を伝える後期課程の『春雪会』が開かれました。会では生徒が先生を交えてレクリエーションを楽しみ、動画で共に過ごした学園生活を振り返り、さらには校内の写真を使ったカレンダーを9年生にプレゼント。7・8年生が心からの感謝を伝えました。



9年生もまた、感謝の言葉と共に後輩へ歌を贈りました。



先生方も一緒に、イラストでお題を伝える「お絵かき伝言ゲーム」。名残は尽きない楽しい時間を過ごしました。



2月の子どもの様子をお知らせします

いいたて希望の里学園
豆まき集会を開きました

2月3日の節分に合わせて、いいたて希望の里学園で、『豆まき集会』が行われました。集会では、児童生徒が、豆まきをアレンジしたレクリエーションを楽しみました。

鬼の絵を付けた玉入れのカゴに、玉を投げ入れる“豆まき”です。子ども達は、自分の中にある「泣き虫鬼」「面倒くさがり鬼」など追い出したい鬼を退治するイメージで、豆に見立てた玉を、力いっぱい投げました。



鬼の絵を貼り付けた玉入れのカゴに向かって元気に玉を投げ入れる子ども達。楽しそうです。



迫力満点の鬼が登場。子ども達は勇気を振り絞って「鬼は外!」と豆をまき、自分の中の鬼を退治しました。

までのりのこども園
節分の豆まき会で鬼退治

までのりのこども園でも2月3日に、豆まき会が行われました。3歳未満の園児は「鬼のパンツ」の音楽に合わせて元気にダンスを踊り、新聞紙を丸めて作った豆を投げて鬼を追い払いました。3歳以上の園児は、わんぱくほーるに集まって、先生から節分の話を聞き、自分の中にある「泣き虫鬼」「わがまま鬼」などに向けて、豆まきをしました。豆まきの後は、おやつと一緒に黒豆茶を味わいました。

いいたて希望の里学園
甘酒のラベルをデザイン

「いいたて学」の授業の一環で児童も栽培に関わった飯館産のもち米「あぶくもち」の甘酒が、2月から、いいたて村の道の駅までい館で販売されています。

「あぶくもち」の甘酒には、うるち米「里山のつぶ」を使ったプレーン味と「いいたて雪っ娘かぼちゃ」を使ったカボチャ味があり、5年生が、3種類の商品ラベルをデザインしました。完成した甘酒は、ふるさと納税返礼品にもエントリーする予定です。

プレーン味は、2種類の米（「あぶくもち」と「里山のつぶ」）が使われていることをイラストで表現。カボチャ味は、色白な「いいたて雪っ娘かぼちゃ」のイラストに元気なイタネちゃんを添えました。



2月3日、道の駅の高橋政彦駅長（後列右端）が持参した完成品を手に喜び合う5年生の皆さん。

カボチャ味 プレーン味